

6/24 ナイスプレーで盛り上がる町民パークゴルフ大会

第18回洞爺湖町長杯町民パークゴルフ大会（洞爺湖パークゴルフ協会主催）が入江の夕日ヶ丘パークゴルフ場で開かれ、男子は葛西和彦さん、女子は西田順子さんが優勝しました。大会は、会員100人が参加。2回り54ホールのレストランカップレー個人戦で行われました。結果は次のとおり。▽男子1位葛西和彦さん 2位青木国夫さん 3位鎌田金作さん▽女子1位西田順子さん 2位沼田美津子さん 3位石垣友子さん



パークゴルフで優秀な成績を残した上位の皆さん

6/13 子どもを育む体制の充実を図る全小中学校でコミュニティスクール設置

学校と地域住民などが力を合わせて学校の運営に取り組み「コミュニティスクール（CS）」とうや小学校・洞爺中学校に続き、新たに虻田小学校・洞爺湖温泉小学校・虻田中学校運営協議会の合同会議が役場防災研修ホールで行われ、学校運営協議会委員、各学校関係者、行政などから約30人が出席しました。会議ではCSの規則などの説明、各校の学校運営などについて協議しました。



CSについて話し合う学校運営協議会委員の皆さん

6/30 新たな生息地「財田地区」地域と考えるウチダザリガニ対策

洞爺湖に生息する特定外来生物ウチダザリガニの説明会が、洞爺総合センターで行われ、27人が参加しました。昨年新たに財田地区で確認され、生息域が広がったため地域住民と対策を考えようと実施されました。株式会社海洋探査の鈴木芳房潜水士が、生息状況の変遷を報告した後、酪農学園大学の吉田剛司教授が現状を説明し、「これ以上生息域が広がらないよう絶対にウチダザリガニを持ち出さないでください」と訴えました。



真剣にウチダザリガニの現状を聞く参加者たち

6/28 洞爺湖温泉の足湯清掃 虻高生 地域へ感謝

虻田高校（古室信行校長）は、洞爺湖温泉にある足湯の清掃活動を行いました。地域資源を活用した観光施設である手湯足湯の清掃活動を通して、地元の基幹産業活性化や地域貢献を考える地域ビジネスの授業の一環で、今年2回目。3年生16人が、洞龍の湯と薬師の湯の2か所に分かれ、施設の浴槽をデッキブラシでこすり、手すりや座席を雑巾などで拭き、汚れを落としました。



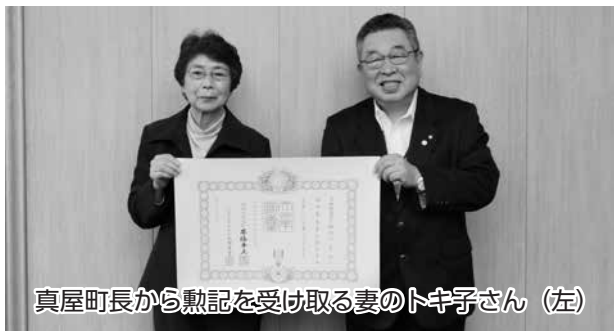
一生懸命清掃する虻田高校の生徒

7/9 旭日単光章を受章
故鍛冶川忠志さんに叙勲

4月に79歳で亡くなった元洞爺湖町議会議員の故鍛冶川忠志さん（洞第一）が旭日単光章を受章し、役場町長室で伝達式が行われました。

鍛冶川さんは、平成11年に旧洞爺村議会議員に初当選。合併後の5期12年にわたり、地方自治の発展に貢献しました。

式では、真屋町長から妻のトキ子さんに勲記と勲章が手渡され、「素晴らしい章をいただきます、主人も喜んでいいると思います」と話しました。



真屋町長から勲記を受け取る妻のトキ子さん（左）

7/5 愛馬の往年を偲ぶ
最後の馬頭観世音慰霊祭

馬頭観世音碑保存協賛会は、農作業を支えた農耕馬を悼む慰霊祭を例年主催してきましたが、会員の高齢化などを理由に30回を節目として、同会を解散することになりました。

入江馬頭観世音堂前で行われた最後の慰霊祭では、同会員や農協関係者たち約20人が参列。活躍してくれた愛馬の往年を偲びました。

岡田光弘会長は「残念だが、なかなか後継者が見つからず、終えることにした。十分やりきった」と笑顔を見せました。



厳粛に行われた馬頭観世音慰霊祭

7/25 噴火の被害を伝えるために
西山山麓散策路の災害遺構を整備

西山山麓散策路は、2000年の有珠山噴火による大地の変化を保存していますが、近年は草木が生い茂り、かつての道路跡や被災した建物が見えなくなっていました。国立公園特別保護区域のため、環境省から特別な許可を得て、役場職員と住民ボランティア約40人が草木を伐採。作業後は、被災遺構がはっきりと見えるようになり、ジオパークの見どころとして多くの人に楽しんでもらえるようになりました。



汗を流しながら草を刈る参加者

7/17 公衆トイレの点検、修理
洞爺湖管工事業ボランティア

洞爺湖管工事業協会（齊藤昌隆会長・加盟9社）は、洞爺湖温泉にある公衆トイレの点検、修理を行いました。

同協会が毎年実施している技術を生かした地域奉仕の一環で、加盟各社から12人が参加。作業前には齊藤会長が「洞爺湖を訪れる観光客の皆さんに気持ちよくトイレを使ってもらいたい」とあいさつしました。

会員たちは珍小島や噴火記念公園トイレなど9か所を分担して点検などを行いました。



珍小島公園のトイレを整備する会員たち